

## 黒川新二先生、館農幸恵先生が 札幌ポプラ会顧問に就任されました

年度途中ではありますが、【札幌ポプラ会規約】（その他）第12条（「この会の運営上必要なことで、規約に定めのない事項は、役員会で協議のうえ決定します。ただし、重要事項は次期総会で審議し承認を得る必要があります」）に基づいて決定いたしました。5月の次期総会で、改めて承認事項とさせていただきます。

---

## 皆様へごあいさつ

### 黒川メンタルクリニック 院長 黒川新二



顧問にさせていただいたいきさつをお話しします。胆振東部地震では、災害時に障がいを持つ子供たちが必要な配慮を受けられるかどうかを心配する声が出ました。新型コロナ感染では、ワクチン接種計画で障がいを持つ人たちへの配慮があるのだろうか、という声が出ました。どちらも、皆様の会が、実情を調べ、自治体に改善を申し入れました。

このような働きかけも、皆様の会の大切な役割です。私は、それを応援し、行政担当者との協議に加わることがあります。そのときに、皆様の会を応援する医師であることが分かるような名称があると便利だと思いました。それを役員さんにお話しして、顧問という名称を付けていただきました。災害も感染もまだ続きますが、協力して乗り越しましょう。

皆様の会と児童精神科グループの間には、力を合わせて活動した歴史があります。それをお話しします。皆様の会は1967年に作られ、事務局は静療院の中にありました。会の目的は、自閉症の子供たちのためのものが何もないところに、教育や医療や福祉を作ることでした。皆様の会と児童精神科グループと教育者たちの協力は、北海道自閉症児実態調査、自閉症の子供を受け入れる情緒障害児学級、専門医療機関の市立札幌病院静療院児童部門、青年期パニックに対応する医療型自閉症児施設、成人期の福祉施設の厚田はまなす園、を作りだしました。1967年（会の創設）から1987年（厚田はまなす園開設）まで、皆様の会は、20年間、全力疾走をしました。どんどん大きくなる子供に、ライフサイクルに対応した教育と医療と福祉を用意するために、立ち止まることができなかったのです。

当時の苦勞の証拠が今も残っています。それは、厚田はまなす園が札幌から遠く慣れた場所にあることです。北海道以外の県でも、親の会が作った成人施設は、遠く離れた町村にあります。建設が地域住民から反対されて、遠く離れた地域でなければ建設することができなかつたのです。

私は、1988年に静療院の児童精神科に加わりました。そのころ、自閉症支援の現場には、新しい目標がありました。障がいを持つ人たちの地域生活を支えることです。厚田はまなす園は、成人入所施設から、地域生活支援の拠点機関へ発展し始めました。皆様の会と私は、重い障がいを持つ人たちの地域生活支援を福祉目標にするように、札幌市へ働きかけました。この協力が、札幌市強度行動障害・自閉症者処遇基本計画と、自閉症者自立支援センター・発達障害支援センター（2005年）を作り出しました。「ゆい」「おがる」という愛称は、皆様の会が付けたものです。

計画を実現させるために、親たちは議会へ陳情を行いました。議会で発言を求められて、「重い障がいを持つこの子たちであっても、地域で、人間らしい生活をさせたいのです。どうか力を貸してください。」と言おうとして、ことばが詰まり、涙があふれた親の姿が、議員たちの心を打ち、計画が実現しました。

会の歩みは、本気で取り組めば実現できないものはない、ということを教えています。皆様の会の活動の発展を期待します。

#### 【略歴】

昭和50年 北海道大学医学部卒業後、北海道大学病院で研修  
昭和52年 神戸大学病院精神神経科へ勤務  
昭和58年 兵庫県立こども病院精神科へ勤務  
昭和63年 北海道立精神衛生センターへ勤務  
平成 2年 市立札幌病院静療院へ勤務  
平成24年 札幌市児童心療センターへ勤務（児童精神科部長）  
平成25年4月 黒川メンタルクリニックを開院

#### 【専門・資格等】

医学博士（自閉症の研究）  
精神保健指定医  
日本児童青年精神医学会認定医